

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200137		
法人名	株式会社 えくぼ		
事業所名	グループホーム さくらつつみ		
所在地	〒027-0036 岩手県宮古市田鎖第5地割33-4		
自己評価作成日	令和5年8月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は桜並木のきれいな長沢川のほとりにあり、1階には小規模多機能センターを併設しており、利用者は1階と2階を自由に行き来して交流を図ることができ合同の行事なども行っている。また、地域行事や保育園・学校行事などにも声をかけていただき地域とのつながりも出来ている。
 数年前からは、訪問看護ステーションとの連携を図りながら、利用者・家族の希望があれば看取り対応まで実施しており、少しずつ実績を積み重ねてきており自信に繋がっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近年全線開通した宮古盛岡横断道路田鎖インターチェンジから数分の花輪地区にあり、長沢川沿いの桜並木や田畑が広がる自然豊かな環境に囲まれた場所に小規模多機能センターとともに立地している。地域の保育所や小学校とのかかわりはコロナ禍でも田植え見学等を継続しながら実施してきた。また、看取りについても、地元医師と訪問看護師の理解と協力を得て行われ、医療連携体制が充実しこれまで複数の対応事例がある。看取り後は、家族と職員へのアンケートを実施し、振り返りをするとともに一人一人に応じた看取りが実施できるよう事業所全体で取り組んでいる。コロナ禍で書面開催としていた運営推進会議を令和5年3月から人数を制限しながら再開し、参画は固定委員のほか、テーマによって参加者を新たに選定するなど効率的に会議を運営している。職員は、理念「家族の一員として愛をもって接し、アイ(目)をもって笑顔で見守り、会いをもって触れ合います」を共有し利用者のケアプランに生かすなど日々の業務に反映し質の高い支援が実践されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年8月23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の業務ミーティングにおいて、理念を全職員が唱和し確認するようしており、職員一人一人が理念の中の「あい」をそれぞれ大切に、利用者に接するようになっている。	理念の「家族の一員として愛をもって接し、アイ（目）をもって笑顔で見守り、会いをもって触れ合います」は、事業所開設当時に職員全員で考えたものであり、現在でも、職員の誇りの源として変わることはない。職員全員で尊厳を持った言葉遣い、体調変化に気づく観察、一つ一つの出会いを大切にして、利用者のケアプランに生かすなど、日々の業務に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年になりコロナウイルスも落ち着き、少しずつであるが地域の花見や清掃活動などの参加を再開し地域との繋がりを大切するようになっている。また、利用者家族が出演する音楽会などにも参加したり、地域包括支援センター主催のミニコンサートにも見学に出かけている。	自治会に加入し、地元の情報も回覧板等で確認している。地元保育所での田植の見学やミニコンサートが近隣で開催される際には参加し、それぞれ近隣の方々と触れ合いが再開している。地元小学校へは職員が出向き、車いす操作方法等の講座を開催するなど、地域の中での役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生を対象に、福祉授業の一環とした車イス操作の体験教室の講師を務め高齢者の支援の仕方について理解を深めてもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて日頃の活動や様子を伝え、意見などがあつた場合はサービスに繋げている。また、地域の情報交換の場ともなっており、それをサービスに活かすようになっている。	書面開催していた運営推進会議を令和5年3月から参集方式で人数を制限しながら再開した。毎回、異なった利用者のほかに家族も参加している。自治会長や地域包括支援センターなど多くの出席者から意見や感想を述べてもらい、事業所運営に役立っている。	委員は固定委員のほか、テーマによって参加者を新たに選定するなど効率的に運営推進会議を運営しており、今後も柔軟な会議の持ち方を工夫されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス関係の報告や相談を行っている。また、コロナ禍における施設としての面会方法やワクチン接種の情報など、参考となる他の事業所の取り組み状況などの情報を得て、実践に活かしている。	市役所担当者は、運営推進会議にも参加し会議開催や家族との面会制限等随時相談をできる体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束をしないケアについて話し合いを持ちたり自己チェック表にて拘束していないかチェックをしたりしている。また、3か月に1度程度身体拘束について確認テストを行ったりしている。	指針を作成し、身体拘束適正化委員会は運営推進会議と併設する形で年3回開催し、運営推進委員のほか訪問看護師、母体の管理者もメンバーとなっている。職員研修を年4回開催し、自己チェックリストや確認テストを実施することで、身体拘束を行わないケアの再確認やそのための職員の意識も確認している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングにおいて学ぶ機会を持ち防止に努めている。研修では虐待について話し合ったり、虐待についての確認テストを行ったりしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い、職員全員が学ぶ機会を持ち支援に繋がれるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族・利用者の不安がないようにしっかりと説明を行うようにし、納得して頂いてから契約するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は随時受けるとともに、年1回利用者家族に対して顧客満足度アンケートを実施し、その中で家族の意見・要望があれば職員で話し合いそれを運営に反映させるようにしている。	利用者で意見等を述べることができる方3、4人で、それ以外の方は利用者の表情や首振り等で意思を確認しながら対応している。年1回実施している家族へのアンケートからは、家族の満足度が高く、職員への感謝の気持ちが伝わっている。利用者、家族との意思疎通が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで話し合ったことや家族の意見を聞きながらそれをその都度管理者に伝え管理者は代表の方にその意見を伝えるようにしている。	月1回の職員会議や年1回の業務改善アンケートで職員意見の把握に努めている。出された意見をもとに、夜勤者専用の仮眠用ソファの購入に至るなど、職員の意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外手当など申請すれば認めてくれ、給料に反映されるのでやりがいは持てるが、人員不足もありシフト的には余裕を持っていない内容となっており、厳しい勤務状況になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格のない職員には資格を取得できるように勤務体制を整え、資格取得のための研修に出席できるように配慮している。 また、法人内外の研修に積極的に出席するようにスキルアップする機会を設けている。		

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの感染防止のためあまり出来てはなかったが、最近になり少しずつ研修会や交流会などにも出席するようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け困っている事を聞いたり、言葉が話せない方については状況をみながらこちらで判断しながら安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望があればできる範囲内で支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況も変化してくるので、今必要としていることを考えながら利用者一人一人に合ったサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の行動を見守り、できない所を支援しながら利用者にはできる事を手伝ってもらうなど支え合っている。また、日常会話や支援を通して相互の関係づくりを築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院など事業所が対応出来ない場合は家族の協力もいただきながら、共に利用者を支えるようにしている。また、家族の希望で外出支援のお手伝いも実施した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる家族・親戚の方々との関係を大切にしているが、コロナ禍の影響により、以前より継続が難しくなっている。かかりつけ医は入居前の医療機関をそのまま継続している。	コロナ禍により家族との面会が難しくなっている状況で、手紙でのやり取りを勧めたが書くことが難しく、職員が代筆することもあった。スマホ動画を活用した面会や受診・買い物時に自宅付近を車窓から見るなど、工夫して家族との関係継続に努めている。併設している小規模多機能センターの利用者、職員や訪問看護ステーションの職員との交流を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を考慮した席の配置をしたり、利用者が孤立しないよう座席を工夫している。利用者間のトラブルが発生した時は、職員が間に入って支援するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても利用者家族との関りは切れぬようにしており、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き、できるだけ希望に沿うように努めている。意思表示の出来ない方は、こちらより声をかけ、本人の意向に沿えるようにしている。不穏の利用者がいる場合は、耳を傾け同調し一緒に行動するようにしている。	意思表示ができる3、4人の利用者からは、日ごろの会話から思いを言葉で伝えてもらい、意思表示できない方からは、場面に応じた表情やしぐさから職員が感じ取っている。職員が把握した内容は、一人一人の介護プランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族より「私です」という利用者の特徴や生活歴などが書いた調書を記入して頂き、それを全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングやカンファレンスを通して、利用者それぞれの状態を把握し、残存する機能の維持が保てるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に課題やプランに対する意見を出してもらい、それを計画に反映させるようにしている。家族に対しては、面会時や電話などで希望を聞いている。	新規利用者は、本人や家族、関係者からの聞き取りにより管理者がプランを作成し、1ヵ月後、2ヵ月後に見直しを行っている。利用者は担当職員が毎月モニタリングを実施し、3ヵ月毎には職員全員によるカンファレンスにおいてモニタリングを行い、プランを見直している。家族や担当医師、訪問看護師の意見は、管理者が把握しプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルは介護計画に沿った記録とし、変化や気づきを記入している。また朝ミーティングを行い夜勤者からの申し送り事項を職員間で情報共有するようにしている。その他、業務日誌に特変などを記載し、それを読んでからその日の勤務に入るようにしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望での外出を支援したり、地域行事があったらできるだけ参加出来るよう支援し、本人・家族の状況に合わせてサービスをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に利用していた美容院は入居後も利用していたが、コロナの影響もあり訪問床屋に切り替えている。かかりつけ医は入居後も継続して利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に入居前からの主治医を継続し、急変時は訪問看護師との連携を図りながら速やかに対応するようにしている。状態によっては専門医の受診につなげるようにしている。	受診には職員が付き添うことが原則となっているが、コロナ禍になって、家族の協力もいただきながら受診支援している。主治医あての情報提供メモを作成し家族が持参し、受診後は付き添った家族から口答で結果を聞き対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問時に特変などあった利用者について報告したり、薬などの情報提供を行い、いつでも助言して頂けるようにしている。また、医療的ケアの必要な利用者にはその都度対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には情報提供を行い、早期治療に繋げるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で重度化した場合の希望を聞き、実際重度化した場合は改めて意思を確認している。最終的に希望が有れば改めて契約をして看取り対応をしている。その際、看取りに対応して頂ける医療機関に主治医を変更し、訪看との連携を図っている。本人・家族の意向を全ての職員一人一人が情報共有し、本人・家族にとってより良い最期となるよう取り組んでいる。	重度化した場合の対応については、入居時に加えて実際に重度化した場合に再度説明したうえで対応している。看取りは、医師(かかりつけ医とは異なる協力医)、訪問看護師の理解、協力により、これまで3例ほどの実績がある。看取り後は、家族や職員へアンケートによる聞き取りを実施し、家族が捉える職員の対応や医療看護体制等の満足度を把握し、職員に対しては看取り期のケアを振り返り改善点等を明らかにしながら手厚い介護に取り組んでいる。	

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で救急時の対応や救命処置の対応などを学んでいるが、急変時には訪看に連絡すれば24時間体制でどのように対処したらよいか相談できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災係を中心に、災害に対応をした避難訓練を地域の方々にも声をかけて行っている。その際水害・火災に対応できるよう研修等も行っている。	避難訓練は、火災、地震、水害に分け年6回開催しているほか、消防設備自主点検2回、救命救急AED講習、備品確認や食品備蓄確認も行っている。万が一の際には、近隣住民の協力も必要であることから予め協力の依頼を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意をするようにし、敬語を使用するよう心掛けている。また、職員同士で、気になる言葉遣いがあった場合には注意し合うようにしている。	利用者の職歴を活かして歌の際は指揮をお願いするなど得意分野で活躍できるよう心がけ実践している。トイレや入浴時はエチケットタオルを使用するなど羞恥心への配慮も忘れていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来ない利用者が多くなっているが、本人の意思を尊重し様子を見ながら自己決定できるように身振り手振りで働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の様子を確認しながら、その方のペースに合わせて支援している。自分で動ける方については自由に過ごしてもらっているが、自己決定出来ない方は、職員が聞いた上で自己決定させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪については訪問床屋を利用し衣類購入はその人らしい衣類を購入するようにしている。また、衣類が汚れていたら着替えさせたり、修繕などもしている。季節に合った衣類を着用させるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存機能を活かし、食事用エプロンを畳んだりしてもらっているが、一緒に準備をしたり、片付けができる利用者はいなく、コップ程度であれば自ら片付けをする利用者はいない。利用者の咀嚼状態に合わせて、ムース食のおかずセットも活用し楽しんで食事ができるようにしている。誕生日や季節に応じた行事食なども提供するようにしている。	会社共通の献立のほかに誕生日や季節の行事には赤飯やあずきばっとうなど手作り献立で楽しむ機会を工夫している。利用者の状況に応じ片付け時の声掛けをお願いし、できることを続けることにも配慮している。また、そしゃく機能低下に伴い利用者の約半数にムース食も活用し、楽しく食べられることを実践している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は摂取した量を記録し、過不足にならないように注意している。家族の希望で、栄養補助食品を追加摂取している方もいたり、嚥下状態を考慮してムース食のおかずセットも活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方にはそれぞれ対応するようにしており、方法も状態によっては口腔ウエットティッシュや洗浄剤・舌専用ブラシなども使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄ができるよう一人一人の排泄パターンに合わせて誘導を行っている。転倒し大腿骨骨折をした利用者に対しては、オムツ対応をしていたが、その後立位が保てるようになったことから、トイレでの排泄が可能となった。	リハビリパンツ利用者8人(うち自立3人)おむつ利用者1人となっているが、一人一人の排泄時間に声掛けをすることやそれぞれの排泄しぐさ等をもとに排泄が自立できるよう支援している。大腿骨骨折した方は、本人の努力と支援者の対応や見守りが功を奏し、現在では自立排泄ができるようになった改善事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取してもらったり、牛乳や乳飲料を利用したりしているが、それでも排便が無い場合は下剤や浣腸で排便に繋げるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通院前や本人の体調や肌状態をみながら週2回～3回は入浴できるようにしている。また、時期によっては、菖蒲を浮かべたり、ゆずを浮かべたりして季節を楽しみながら入浴するようにしている。	利用者一人一人に浴よう、体調や健康状態を確認後に、基本月・水・金曜日午前9時～11時の時間帯に、体力的にも負担にならないよう、最低でも週2回以上の入浴を継続している。入浴を楽しみにしている方が多く、同性介助の希望にも対応している。菖蒲や柚子を使用した季節を感じる入浴も工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状況をみながら体調が悪い様子がある時や傾眠が強い時などは、居室で休むことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量を利用者それぞれのファイルに入れ、職員はいつでも確認できるようにしている。下剤などはその日の状態を見て投与するようにしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽好きの利用者にはコンサートの外出支援を行ったり、1階の小規模多機能センターのレク活動に参加したりする方もいる。気分転換のため、天気の良いときは外へ散歩に出かけたりしている方もいる。また、パズルの得意な方は何種類ものパズルに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが落ち着き、近くの公園に花を見に行ったり、地域の行事にも再び少しずつ参加するようにしている。天気の良い日にはドライブへ出かけたり、音楽好きの方にはコンサートへの外出支援を行ったりしている。	桜の開花時期には近隣の桜並木に出かけたり、系列の事業所までドライブするなど、外出する機会を増やす努力をしている。また、コンサート鑑賞の個別対応や久しぶりに盆外出として半日程度自宅で過ごしていただくなど、利用者や家族の希望を取り入れ好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人それぞれのお金を預かっており、必要な買い物があったら、その中から職員が代わりに購入するようにしているが、一部の利用者ではあるが、外出した際には本人が必要なものを自ら選んでいただき支払いもしている。家族へは毎月購入した分の領収書と共に、出納帳の写しを送付して報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が不穏の際は安心して頂けるよう、家族の協力のもと本人と電話で話をさせていただいたりしている。知り合いからの手紙が来た際は、本人に渡して読んであげており、返事を出そうと支援してみたが、書くまでには至らなかった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには観葉植物を置き、地域の方から頂いた花を飾ることもある。年間の行事に合わせての飾りつけを行い、季節を感じるようにしている。また、ホール内には常に童謡やクラシック音楽が流れており、明るい雰囲気を保つようにしている。	利用者が集うホールには観葉植物のほかに常に季節を感じるように近隣からいただいた花を飾ったり、その時期に応じた装飾(七夕やクリスマスなど)を施し明るい共有空間となっている。また、トイレ等清潔が保たれ安心した空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で居室で休みたい方は居室でテレビを観たり、ホールでは気の合った方との会話を楽しんだりできるよう座席を工夫している。時には、ベランダでのお茶会を開催することもある。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時には家族と相談して、自宅で使い慣れた ものを持ってきてもらうようにしている。また、居 室には家族の写真や本人が以前作成した作品 などを飾り、安心して居心地よく生活できるような 工夫をしている。	居室には、クローゼットと暖房が設置されてい る。自宅で使用した愛着のある品物やテレビ、空 気清浄機、家族写真、家族の描いた絵画等が持 ち込まれ居心地よく安心して生活ができるよう配 慮されている。また、猛暑対応として居室へのエ アコンの設置を予定している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	自分でできる事はなるべくやってもらい、見守りを している。排泄等も出来ない部分は介助してい る。残存機能を活かし自立できるように促してい る。また、動線上に物を置かずスムーズに行動で きるよう工夫している。		